

耐震	部位	壁	分類	閉鎖型	評価日	平成 28 年 2 月 8 日	評価番号	A-442
評価技術名称 部分開口 構造用合板補強工法 真壁「1 間 上下あき」裏棧あり					連絡先 http://www. 〒 電話 Fax			
概要	技術概要 構造用合板を横向きで用いて、1 間の壁面を真壁の仕様で、横架材及び土台と面材が接合されていない補強工法。床天井間のみを構造用合板で補強する工法。							
	技術の特徴 ・ 天井・床を解体することなく補強が可能。 ・ 1 間の間に柱がない真壁に有効。 ・ 一般流通品なので取り扱いが容易。						コスト サンプル構面 18,792 円/kN 設計見積り例 —	
	公的機関による技術評価・性能証明 機関名 ・ 評価番号 ・ 評価取得日 ・				実験実施機関 名古屋工業大学 その他			
仕様	適用範囲				写真・図			
	構法		木造在来軸組工法					
	規模		3 階建て以下					
	基礎、地盤		特になし					
	適用部位		内外壁					
	その他		特になし					
	主要構成部材の仕様				厚 12 @100 上下受材は正面から見て 45mm 継手受材は正面から見て 90mm			
	構造用合板		厚 12mm 以上 横使い		真壁 裏棧あり 構造用合板 厚 12mm 以上 釘 N50、CN50 @100mm 以下 合板四周打ち 四方受材 30×40mm 以上 釘 N90 @200mm 以下 上下受材 90×45mm 以上 柱に対し 2-N75 斜め打ち 継手受材 30×90mm 以上 釘 四方受材に対し 2-N75 斜め打ち 四方受材に対し、継手受材負け			
	釘		N50 @100 以下					
	継手受材		30×90mm 以上 継手受材勝ち					
耐震性能				評価仕様: 真壁仕様 裏棧あり				
		壁基準耐力		壁基準剛性				
裏棧あり		3.12kN/m		726kN/rad./m				
裏棧あり: A-111 からの低減係数 $\alpha = 0.6$ 壁基準耐力 $5.2 \times 0.6 = 3.12$								
設計方法								
①柱接合部による低減 取付部分が健全であること								
②劣化による低減 取付部分が健全であること								
施工者指定								
特になし								
その他								
旧 A-011								